

第2回 区民協働のあり方検討会議
議事概要

日時・場所

- 1 日時 平成29年7月21日(金) 午後6時30分～午後8時45分
- 2 場所 ココネリ3階 区民・産業プラザ 研修室1

次第

- 1 開会
- 2 案件
 - (1) 今後の会議の進め方について
 - (2) 前回の振り返り
 - (3) 各活動主体が協働する魅力・可能性について

配付資料

- 1 区民協働のあり方検討会議の進め方 ... 資料1
- 2 地域の各活動主体の課題と長所(第1回検討会議のまとめ) ... 資料2
- 3 活動主体の「課題」と他の活動主体の「長所」の
組み合わせによる「新しい協働」
【課題 × 長所 = 解決可能性】のイメージ ... 資料3
- 4 区民協働のあり方検討会議 委員名簿・座席表 ... 資料4
- 5 練馬区区民との協働指針 ... 参考1
- 6 みどりの風吹くまちビジョン ... 参考2
- 7 みどりの風吹くまちビジョン(概要版) ... 参考3
- 8 区政改革計画 ... 参考4
- 9 町会・自治会の加入率の推移 ... 参考5
- 10 地区区民館の概要 ... 参考6
- 11 やさしいまち通信 ... 参考7
- 12 地域活動紹介BOOK ... 参考8
- 13 まち活通信 ... 参考9
- 14 I am OKの会のチラシ ... 参考10
- 15 練馬こども笑店街のチラシ ... 参考11
- 16 協働の形態とその意味合い(佐藤座長資料) ... 参考12

出席委員(11名)

佐藤真久委員、広石拓司委員、加藤政春委員、武田康宏委員、高原洋子委員、

尾原亮子委員、三谷ますみ委員、村木善郎委員、吉田美穂子委員、美玉典子委員、
田中一宏委員

欠席委員（0名）

区出席者

山内副区長、専門調査員、地域文化部長、地域振興課長、協働推進課長

事務局

地域文化部 協働推進課

傍聴者

0名

議事概要

1 開会

座長

- ・第2回区民協働のあり方検討会議を開催する。
- ・前回欠席の委員から自己紹介をお願いする。
- 広石委員、吉田委員から自己紹介

2 案件

(1) 今後の会議の進め方

事務局

- 資料1の説明

座長

- ・質疑に移る。
- 特になし

(2) 前回の振り返り

事務局

- 資料2の説明

座長

- ・資料2を見て、活動主体ごとにコメントをお願いする
- ・まず、地区区民館についてお願いする。

E委員

- ・地区区民館は、地域ごとに成り立ちや関わっている人が違うため、運営の考え方に違いがある。このあたりについて、今回、お集まりの委員の皆さんには見えていないところだと感じる。

座長

- ・つぎに、町会・自治会についてお願いします。

C委員

- ・記載の中で、一番印象に残るのは、「町会・自治会が何をしているのかわからない」という意見である。大きな事業は、掲示板や学校でお知らせをする。日常の活動として、交通安全や防犯の活動をしている。目には見えていると思うが、町会・自治会がやっているとは感じていないかもしれない。
- ・若い人も高齢者も、町会にはあまり関心が無いかもしれないが、地区祭や盆踊りにはたくさんの方が来る。町会としても、どこが悪いのか掴めない状況である。

座長

- ・つぎに、事業者についてお願いします。

K委員

- ・事業者からまちづくりセンターにアプローチをされる場合がある。不動産事業者から、マンション等を建てる際に、地域に開いた形でやりたい、チラシにまちの情報を掲載したいので、協力してほしいという依頼がくる。ただ、立場上、民間事業者とどこまで一緒にできるのか迷う部分がある。
- ・一方、企業の社会貢献事業も活発になっている。まちづくりセンターとして、どのように関わるか模索中である。

座長

- ・つぎに、NPO・ボランティア団体についてお願いします。

H委員

- ・第1回の会議で出された意見は、ほぼその通りだと思う。
- ・NPO・ボランティア団体の一番の課題は、目的を持ち、熱意を持って一生懸命活動しているが、巻き込み方、活動の広げ方、連携等について、不十分だと感じる。これは、NPOの当事者も感じているし、外部の方からもそう思われている。

座長

- ・つぎに、学校・学術機関についてお願いします。

F委員

- ・長所の部分が活かされると、地域の中での学校の役割が良いものになる。
- ・地域の中で子ども達は、迷惑がられる存在になっており、公園でも自由に遊ぶのが難しくなっている。走り回ってボール遊びができるのは、校庭ぐらいである。今後の学校の役割に期待したい。

座長

- ・つぎに、区について願います。

事務局

- ・区側が考えていることと、区民の皆さまが考えていることには、ズレがあることを改めて確認できた。
- ・「区民は様々な施策のパートナーとは考えていない」、「区民にとって一緒にやるというより何かやってくれるというイメージ」という意見は、実際に区民の方から指摘された経験がある。
- ・区は、税金で区民サービスを提供することが基本的な役割であるが、区民の皆さまと協働でやる部分と、行政自身が担わなければならない仕事の境目がどこなのか、考えさせられる。
- ・また、「活動の助成金でもなく、区からの委託でもない第3の資金援助の方法」という意見がある。新しいものとして、ファンレイジング等を活用した寄付の方法がある。まちづくりセンターや社会福祉協議会が行っている助成金も必要だが、それ以外の方法も考えなければならない時代となっていることを改めて認識できた。

(3) 各活動主体が協働する魅力・可能性について

事務局

- 資料3の説明

座長

- ・様々な活動主体の「課題」を、他の活動主体の「長所」と組み合わせることで解決していこうという発想である。
- ・こうした取り組みは、B委員が知識や経験を持っているため、ワークに入る前にコメントをお願いする。

B委員

- ・私達が所属する組織は、町会やNPOのサポートを行っているが、多くの団体は、自分の団体の問題は自分達だけで解決しなければならないという気持ちが強い。
- ・一般的にカンニングは悪いことだと言われる。隣の人が解いている内容を参考にし、自分の点数を上げることである。何となく、他の人から助けてもらうことは、カンニングするみたいだと感じている人が多く、自分の団体の問題を自分達だけ解決しなければならないという考え方に捉われて、行き詰っている団体が多いと感じる。
- ・自分に「できないこと」が分かった人は、他人と協働ができる。私達は、他人に対して、つい「できます」と言いがちである。でも実は、「そこはできるけど、ここはできない」ということが、自分達の中で見えてきた時、または、「自分達はできない、あるいは、できるかもしれないが、自分達より上手にできる人がいるかもしれない」

と気付けた時に、初めて他人の力を借りてまで、自分達の課題を解決しようと思えるようになる。

- ・他人と何かをやることは、面倒くさいことであり、最初はなかなか上手くいかないことが多いため、ついつい自分達だけでやったほうが早いと思ってしまう。
- ・今日のワークでは、自分達の「課題」に対して、他の団体の「長所」を生かして組むことで、上手くできることがあるのではないかと考えてもらいたい。
- ・会議の中では、「課題」が悪いことではなく、それが協働を生み出す芽となるので、積極的に苦手な部分を明らかにし、他の団体に助けを求めて一緒にやるということを考えてほしい。その結果として、協働の可能性が見えてくるのではないかと考えている。

座長

- ・個々の団体ではなく、チーム練馬として、活動主体同士が連携して、良いもの作っていくということである。
- ・今日のワークでは、資料3に基づき、委員が属する活動主体ごとに分かれ、自分が属する活動主体の「課題」が何であるのかを明らかにし、他の活動主体から何をサポートしてもらえれば上手く行きそうなのかを考えていただきたい。

- ワークショップ -

座長

- ・活動主体ごとに、検討した結果について発表をお願いする。
- ・まずは、学校・学術機関からお願いする。

A委員

- ・前回の会議で出された課題に加え、「先生、子ども、親、それぞれが忙しい」、「子ども自身も課題を抱えている」、「親も子どもに関する悩みを抱えている」という課題が新たに出た。
- ・こうした人達が学校に関わっているが、お互いに忙しいとか、学校は教育現場であるという考え方が強く、個別の課題を解決する場所にはなっていないという現状がある。
- ・これに対して、他の活動主体からどのようなサポートが欲しいのかを検討した。
- ・NPO・ボランティア団体には、明確な課題に対して関わってもらいたい。例えば、子育て、子どもの発達障害、中高生特有の悩み、進路や人間関係に対して、NPO・ボランティア団体は関われる力がある。
- ・事業者には、キャリア教育の面で関わってもらいたい。また、子ども達の通学路にある商店街には、平時のつながりを活かした学校との関わりができる。
- ・町会・自治会には、多くの人を集めるお祭りを開催する力がある。親も子ども忙し

い中で、みんなで気楽に楽しめる機会として、お祭りに対する魅力がある。こうした空間を提供してもらいたい。町会・自治会に加入していなくても、お祭りには顔を出すという方が多い。関わりを持つきっかけにできる。

- ・地区区民館には、学校ではない、家ではない、平時のもう一つの居場所として機能がある。そうした居場所として役割を担ってもらいたい。
- ・区には、「公共とは何か」を教える機会を提供してもらいたい。学校の中で税・公共サービスを教える、公共とは行政が区民にサービスを提供するだけではないということを伝えてもらいたい。

F 委員

- ・学校を軸にして地域の課題を解決することができる。その際、校長先生が地域をプロデュースできると良いのではないかという意見もあった。

斉藤専門調査員

- ・校長先生は、地域の中の空間、様々な人に上手く学校教育の中に関わってもらえるような調整ができる能力を持っていないかならなければならないということである。これは、区職員にも求められていることだと思った。

座長

- ・つぎにNPO・ボランティア団体の発表をお願いします。

I 委員

- ・課題として「広報手段が乏しく、活動が伝わらない」ということがある。町会・自治会は掲示板、回覧板等、地域活動の資源を持っている。そうしたものを活用していきたい。
- ・また、私達の広報手段として一番効果的なのは、メンバーの口コミである。様々な年代が活動できる拠点、多様な地域住民が活動できる拠点である地区区民館と、NPO・ボランティア団体が得意とする口コミ力を組み合わせることでの効果的な広報ができるのではないかと思う。
- ・区との関わりとして、区は地域活動の支援に使える資源が豊富である。活動資金の助成に加え、人材も含めて連携ができれば良いと思う。
- ・なお、長所として、「取り組む課題が明確である」ということがある。明確であるが故に、こうしたことをやりたいという人が集まってくる。人が集まることで、レベルが向上するとともに、居場所にもなる。町会・自治会では「新しい活動を担える人材がいらない」という課題があるため、是非、私達を活用して欲しい。
- ・ただ、NPO・ボランティア団体は目的が明確な集団であるが故に、町会・自治会や地区区民館のような地縁によって成り立っている団体とは性質が違う。地縁団体と手を組むことによって、活動が制限されてしまうと、特性が生かせなくなる懸念がある。

H 委員

- ・ N P O ・ ボランティア団体は、定年退職をした方にやりがいを提供できる機能がある。地縁団体の人材不足も、目的を明確に伝えることができれば、公共に対して関心がある人達の、呼びかけにつながるのではないかと思う。
- ・ N P O ・ ボランティア団体は、活動をする、備品を置く場所がない。こうした活動が活発になるほど、活動場所の確保が難しくなっている。町会・自治会や地区区民館は、スペースを持っている。また、商店会も、ひろばやアーケード、空き店舗、普段使わない部屋等のスペースを持っている。そうしたスペースを活動場所として活用できないだろうか。
- ・ 学校は運営が閉鎖的であるが、やりたいことを明確に発信できれば、N P O ・ ボランティアが協力できる。様々な団体が学校に入っていくことで、運営の仕方も見直されていくと思う。

G 委員

- ・ 私が属する団体では、大学の先生と組んで、活動している。大学の研究の役に立ちながら、最新の研究成果をフィードバックしてもらっている。
- ・ N P O は通常、やりたいことを実現しようとして自由に考える。その際、自分できないことは、できる人のところへ行って交渉をする。「無い、無い」と言っても仕方がない。

座長

- ・ つぎに事業者の発表をお願いします。

B 委員

- ・ 企業や商店は、地域活動をするとは最後は営利につながると考えられている。この考え方をなんとかしないと協働は難しい。
- ・ 企業や商店があることにより、安心、にぎわい、防犯、高齢者の買い物支援等のメリットがある。企業や商店会が持っている長所を、地域資源として活用していく方が良い。
- ・ 他の活動主体と一緒にイベントもできる。ただ、商店会も担い手が減り、地域に関わる人も少なくなっている。一方で、商店ごとに専門性を持っているので、一緒にイベントをするとN P O や町会・自治会、学校にとってもメリットがあると思う。
- ・ 個店は、地域と新しい住民との接点になりうる。引っ越して来て、最初に地域と出会うのは個店である。その機能を積極的に評価できないか。営利だけでなく、地域の窓口的な機能がある。そこに着目すれば、町会・自治会やN P O も活用できるのではないか。
- ・ 高齢者の買い物支援が今後顕在化していく。高齢化が進むと身近な場所で買い物ができることが重要になってくる。回覧板には、個店のチラシはダメとなりがちだが、個店の情報を流すことで高齢者の生活支援にもなる。商店の機能の捉え直し、個人の利益だけでなく、見方を変えれば、高齢者の買い物支援にもなる。

K委員

- ・信頼性をどのように築いていくか。企業・商店会の社会貢献に客観的な評価と新しい基準づくりが必要ではないかという話をした。

座長

- ・つぎに、町会・自治会の発表をお願いする。

C委員

- ・町会の活動について、回覧板、掲示板で情報を発信しているが、新しい住民は何も分からない。もっと活動を周知する場所がある。学校、地区区民館等を使って、分かりやすく周知をすれば、そこに来ている人達に伝わる。
- ・西大泉地区区民館の場合、150の団体が登録し、年間で7万人の利用がある。こうした人達に町会・自治会の活動が分かるように伝えていかなければならない。
- ・また、学校、子どもを通じて、接点を持っていくことも必要だと感じた。地区祭は学校を通じてPRをしてきたが、その他のことは、あまりやってこなかった。町会・自治会の活動についても、学校を使ってPRをして行けば、非会員にも伝わるという意見があった。
- ・町会・自治会は災害に備えている。災害があった際は、地域を守る機能がある。そうしたことをもっとPRしていく必要がある。
- ・私の町内では、介護施設が増えている。大きなところでは、50人位の利用者がいる。そうした方も含めて、町会・自治会に加入してもらい、同じ地域の暮らす住民として、連携している。町会の盆踊りや地区祭等に参加してもらっている。
- ・戸建が建つ時、建設事業者が町会のPRをしてくれる。その際、町会の役員が勧誘に行く。引っ越してすぐなら、入ってくれることが多い。時間が経つと入ってくれない傾向がある。

J委員

- ・町会・自治会の一番の強みは回覧板、掲示板といった情報伝達手段を持っていることである。NPO・ボランティア団体は広報手段が乏しいので、この部分で協力できる。
- ・マンション等では、管理組合の組合費の中に、町会・自治会費を含めているところもある。そうしたところでの事業者との連携という話も出た。

D委員

- ・町会・自治会の新たな課題として、非会員だけでなく、町会員であっても、役員や何かの係をしている人以外、ただ町会費を払っているだけ、回覧を回しているだけの人は、意外と町会が何をしているのかわからない。そのため、町会のメリットを享受している意識が薄い。会員ではない人から「町会ってどう？」と聞かれても、町会の良さを伝えられない。町会の良さが口コミで伝わらない状況がある。
- ・会員にはもっと行事等に参加してもらい、町会の良さを実感して欲しい。もっと行

事に参加したくなる工夫が必要だと感じた。

- ・学校を通じて、子育て世代にアプローチすることもできる。子どもがお祭り等に参加しているうちは、町会を感じるが、子どもが大きくなり、他の地域の中学校や高校へ通うようになると、町会との接点や保護者同士の接点も希薄になる。町会の加入を増やす課題と同時に定着させるための工夫も必要ではないかという話があった。

座長

- ・つぎに地区区民館の発表をお願いします。

事務局

- ・地区区民館では、区民向けに様々な事業を行っているが、運営委員会だけで担っていくのは限界がある。NPO・ボランティア団体とつながることで、団体の専門性や多様性を活用した新たな事業展開ができ、新たな利用者の参加が期待できる。
- ・また、事業の担い手も不足しているため、学校とつながることで、学校に子どもを通わせる親に、手伝ってもらおう。現在でも、「PTAお手伝い制度」があり、できる範囲で関わってもらっている。
- ・運営委員会の役員の担い手不足についても、学童クラブ、子ども向け事業を通じて、親と接点を持ち、地区区民館の運営に関わってもらい、子ども達が卒業した後も、関わってもらえる工夫をすることで、担い手の新陳代謝が生まれるのではないかという意見があった。
- ・また、地区区民館の窓口業務は、運営委員会に委託をし、地域の人を雇用してもらっている。ただ、運営委員会には荷が重いため、地域の事業者と連携し、地域の中で雇用を生み、運営してもらおう仕組みができれば良いのではないかという意見もあった。

E委員

- ・従事者を雇用することは、大きな負担がある。区から委託料をもらって、地域住民を雇用するが、研修を行い、育っても、すぐやめてしまう。運営委員会が行うには限界がある。専門性がある事業者との連携を視野に考えていくべきである。
- ・出張所廃止後、地区区民館は地域の中での拠点としての機能がより一層求められている。区職員は、館運営だけでなく、地域のことを把握する必要が出てきている。区と連携しながら、地区区民館職員の業務の範囲を見直していく必要がある。
- ・館の運営については、NPO団体の方や、若い子育て世代などに、もっと地区区民館に足を運んでもらい、運営委員として、館事業に関わってほしい。新しい担い手を増やしていきたいと考えている。

座長

- ・最後に区の発表をお願いします。

地域文化部長

- ・区が一番大きな課題としては「多様化する課題に対して区だけでは対応できない」

ということだと考えている。こうした課題に対して、町会・自治会の地域の課題に幅広く対応できることや、NPO・ボランティア団体や事業者の専門性を生かし、連携しながら取り組んでいく必要がある。こうした取り組みの前段として、地域の皆さまとの信頼関係が大切である。

- ・ただ、区職員には、区民の皆さまと一緒に取り組むノウハウや機会、意識が不足しているという課題もある。基本的には、区の体制、職員の意識については、他の活動主体の「長所」を活かすというよりも、区自身が行っていくものであると考えている。各活動主体の活動に関わっていく中で培っていき、様々な経験をすることで、変わっていくのではないかと。
- ・区の中にいると、自分の仕事に関係無いことは、あまり求められない。地域に出かければ、様々な分野の話をされる。いろいろなところと連携が必要だということに区職員自身が気づく。こうしたことの積み重ねで体制が変わっていく可能性がある。区職員のこれまでのイメージが払しょくできれば、信頼関係も築かれていくという意見があった。

座長

- ・以上で、本日のワークの発表を終了する。事務局で、活動主体ごとに、今日の意見のまとめを作成するので、その内容の確認をお願いします。
- 活動主体ごとに確認者を指名
- ・最後に今日のワークの振り返りとして、コメントをお願いします。

B委員

- ・今日のワークの中で、自分の弱いところを積極的に出してもらった。非常に大事なことだと考えている。助けたいと思っても、課題を出してくれなければ、他の人も手の出しようがない。弱いところを出し、他の人とつながり、信頼関係を築くというのが一番大事だと思う。相手を信頼できないと助け合いは始まらない。今日のワークの結果を実現していくために、違うセクターの人達とどのように信頼関係を築いていくのが鍵となると思う。
- ・もう一つ、良い連携をするためのプラットフォームやルールをつくっていくことも重要で、今後の検討課題だと思っている。

I委員

- ・前回のワークでは、NPO・ボランティア団体のところは最初、長所が挙げられていなかったが、各委員と話をする中で、多くの長所を発見できた。特に、子ども、高齢者、障害者いずれの分野でも「居場所づくり」への支援は大切である。NPO・ボランティアが活躍できる場所である。

A副座長

- ・各委員と話をするのは、とても有意義だと思う。グループ分けをして考えることは、今まであまりして来なかった。非常におもしろいと思っている。

- ・日本には「他力本願」という言葉がある。若いころは自分の力で頑張る。それも大切ではあるが、年齢を重ねて来ると、自分の力には限りがあるという思いが日々強くなっていく。その時に人の力を借りてみようという発想は、とても重要だと思っている。それまでに、色々な人間関係を築いておくことが大切であるが、その上に立って人の力に頼ってみる。今日のワークもそうだが、一方で欠けている部分が、もう一方では備わっているということがある。このところを上手く調整していく。全体を見渡し、調整できるのは区が一番相応しいと思う。区職員には、大きく目を見開いて、見てもらいたいと考えている。

B副座長

- ・今日のワークを通じて、いくつかの気づきがあった。町会は、多くの団体と付き合っている。そうした団体ともっと連携して、町会の活動をPRすることで、町会の活動が分かるようになり、色々なことが広がるのではないかと感じた。身近にあるところから、見直すことで、何か良い改善策があるように感じた。回を重ねることで、何かのヒントを見出していきたい。

山内副区長

- ・町会・自治会、NPO・ボランティア団体、事業者等が一堂に介し、本音の議論する場というのは有りそうでなかなか無い。ワークショップ形式で行うことは、各委員の本音を引き出しやすくする。新しい方向を生み出していこうということにつながっていると感じた。区が主催する会議で、このような方式で議論することは珍しいのだが、協働に関しては、こうあるべきだという唯一解が無く、議論をする中からしか出て来ないと思う。こうした手法で生み出される新しい方向性とはどのようなものなのか、期待感が高まっている。今後ともよろしく願います。

3 閉会

事務局

- 次回開催日程ほか事務連絡

座長

- ・以上で、第2回区民協働のあり方検討会議を閉会する。